

四季の森木

2010.03
Vol.14



Joint business
ゆめふうせん

Step Up
ホームヘルパー養成研修事業から就労移行支援事業所、働き暮らし応援センター等の連携による就労

New challenge
各働き暮らし応援センターに販路拡大推進員を設置

Topics
企業の環境美化×NPOでの森林保護・活用×障害のある人の就労

Information
こだわり作業所カフェ特集パートII

(社)滋賀県社会就労事業振興センター

〒525-0032 滋賀県草津市大路2丁目11-15 TEL : 077-566-8266 FAX : 077-566-8277 URL : <http://www.selp-shiga.net> E-MAIL : selp1@hukusi-shiga.net

Step Up ホームヘルパー養成研修事業から 就労移行支援事業所、働き・暮らし応援センター等の連携による就労



国の天然記念物であるウツクシマツ(美松)の自生地である自然豊かな場所に「特別養護老人ホーム美松苑」があります。

美松苑と振興センターの関わりは、3年前に美松苑で障がい者雇用を考えていたときに振興センターに相談したことがきっかけでした。美松苑では3年前から障がい者雇用を始め、現在では3名の障がい者を雇用しています。従業員の種村美穂子さんは前職を退職して、3年前に振興センターの3級ヘルパー養成研修事業により3級ヘルパーの資格を取得し美松苑で働くことになりました。トイレやフロアの掃除とプランタで育てている花の管理が主な仕事です。

美松苑での障がい者雇用や種村さんの仕事ぶりについて特別養護老人ホーム美松苑 苑長の富士原 要一さんと種村さんの担当者である久松シズヨさんにお話を伺いました。

－雇用のきっかけはどのようなものでしたか？

以前は洗濯や清掃とプランタの管理を利用者の支援と兼ねて職員がしていましたが、業務を分けて清掃などを専門にする職員を雇えば効率がいいのではないかと考えたのが始まりでした。久松さんが一人で掃除をしてくれるようになりましたが、ひとりでは施設内すべてを掃除できないと考えていたときに、種村さんを紹介して頂いて雇用することになりました。

－種村さんが入社して3年が経ちますがいかがですか？

来てくれて楽になり助かっています。毎日利用者さんが施設を使われるのに、掃除をする職員が1人しかいなかったのが手がまわらないことがありましたが、種村さんが来てからは二人で掃除をして利用者さんに快適なサービスを提供できるようになりました。

雇用をする前は障がい者ということで利用者さんが

偏見を持つかもしれないと考えましたが、実際に雇用

をしてみたら何の問題もありませんでした。職員も仲良くしているようで、駅から歩いて出勤している種村さんを見つくと、車に乗せて一緒に出勤してきます。遠くから出勤しているのに遅刻も欠席も今のところありません。

また、施設の中にいるとなかなか季節を感じる事ができませんが、二人で掃除をするようになってからはプランタの管理もできるようになり、四季折々の花を育てて利用者の皆様に楽しんで頂いています。

－種村さんの仕事ぶりはいかがですか？

久松さんが少しずつ仕事を教えていったので、種村さんも無理なくスムーズに仕事を覚えていけたように感じます。

認知症のお年寄りが多く利用していますが、種村さんの性格や雰囲気のおかげで利用者さんとすぐに打ち解けているようです。部屋で気づいたことはメモして報告してくれるので助かります。

特別に指示したわけではないのですが、久松さんの姿を見て種村さんも利用者さんに声をかけるようになりました。利用者さんの名前も覚えてきて利用者さんからも話しかけられるようになり、それが本人のやりがいになっていると思います。

－種村さんに今後期待することはどのようなことですか？

常に体を動かしている仕事なのでしんどいと思います。疲れたら休むようには言っていますが、あまり休みもとらずにがんばっています。

働き始めてから少しずつ仕事を覚えてきたので、言われたことだけでなく自分で次の仕事を考えてほしいです。あと、メモ帳を持っているのでメモをと

るようにすれば、もっと多くの仕事を覚えることができるかもしれません。

仕事の合間に種村さんにもインタビューをさせていただきました。

－今チャレンジしてみたいことはありますか？

掃除やプランタの管理はやりがいのある仕事ですが、3級ヘルパーの資格を生かしてヘルパーの仕事してみたいです。利用者さんがいつも声をかけてくれるので、利用者さんのお手伝いがしたいです。

－休日はどのように過ごしていますか？

家の近くのお店に買い物に行くことが多いです。昔は音楽をよく聞いていたので、テープを買いに行っていました。五木ひろしがすごく好きで、ファンクラブに入ってコンサートに行ったりしていました。

仕事帰りの電車では疲れてすぐに寝てしまうことが多く、あっという間に駅に着いているそうです。

「快適な生活空間を利用者さんに提供するためのお仕事に誇りを持っています。」という言葉がインタビューをしていて印象に残りました。グループホームに帰ってから、グループホームの友人に仕事の話をしているそうです。話を聞いたグループホームの皆さんのモチベーションアップに繋がるのではないのでしょうか。

毎日仕事することは肉体的にしんどいみたいですが、利用者さんがありがとうと声をかけてくれることがうれしいそうです。また、利用者さんがキレイな施設を利用してもらうために施設を掃除することにやりがいを感じています。

緑化事業で環境美化、森林保護、障害者就労を育てます。

Topics 企業の環境美化×NPOでの竹林保護・活用×障害のある人の就労

～ローソンでの竹繊維マットを活用したセダムの植栽事業～

野洲市の琵琶湖岸、さざなみ街道(湖岸道路)沿いマイアミ浜近くにオープンしたローソン野洲菖蒲店の緑化を、振興センターが窓口になり、野洲市内5カ所の作業所で構成する「野洲市作業所連絡会」が請負い施行しました。

この事業は、ローソンの環境・美観事業の一つで、竹の新たな活用による竹林保護等を目的に活動しているNPO法人きょうと京北バイオマスデザインが開発した竹繊維製防草マットの穴に、多肉植物で乾燥に強いセダムという植物を植え防草と緑化をする事業です。

施行当日は天候もよく、5作業所から合計15名の方が、店舗のまわりの150㎡に3800株を植栽しました。また、ローソンさんと共催でセレモニーを開催し、橋本澄男滋賀県障害者自立支援課長や櫻田英治野洲市障がい者自立支援課長にもご臨席いただきました。

今後も振興センターでは滋賀県内で新規オープンするローソンの緑化事業を請け負う予定です。また、作業所でのセダムの栽培や森林・竹林保護を切り口とした様々な事業について企業の方々と連携をし、環境や森林・竹林等の保護、企業のCSRと障害のある人の就労を連携させた事業を展開する予定です。



Information

作業所

厳選こだわりカフェ特集 Part II

滋賀県聴覚障害者福祉協会 びわこみみの里
Dog cafe 2960 (ふくろう)
オリジナルカレーとバウムクーヘン

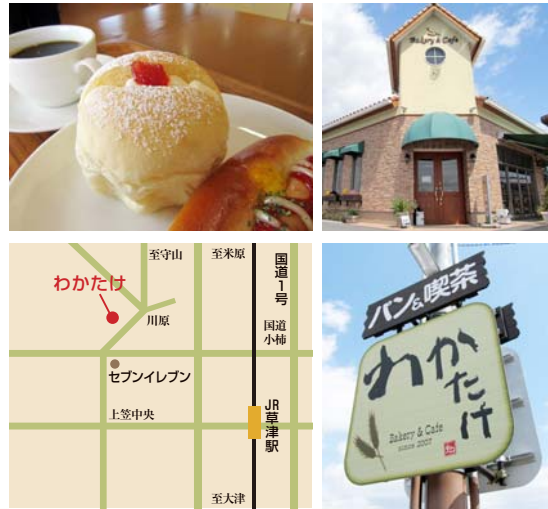
地元野菜をたっぷり使ったオリジナルカレーは週替り、豆カレー・豚角カレー等の他、季節限定カレーもあります。また、隣の菓子工房で焼いた地元産の新鮮卵をたっぷり使った、しっとりふんわりのバウムクーヘンも店内で召し上がっていただけます。ゆったりした店内は、大型犬連れでも安心してくつろげ、ドッグラン・トリミングサロン(要予約)併設。店内ではドッグ雑貨・縫製品・焼き菓子等がお求めになれます。田園風景を眺めながらのカフェタイムはちょっぴり贅沢気分になれそうです。犬連れの方はもちろんそうでない方もぜひ一度お越し下さい。
営業日以外でも10名様以上のご予約はご相談に応じます。



〒524-0102 守山市水俣町165-1
TEL 077-514-9078 FAX 077-585-7144

ワークステーション わかたけ
Bakery & Cafe 『わかたけ』
やきたてパン・こだわりコーヒー

3年前のオープン以来、焼きたてのパンを地域の皆様にお届けしています。
オススメはチーズ、たまねぎ、ベーコンの入った「パン・オ・フロマージュ」です。焼きたてを是非食べに来て下さい。
アンパンやメロンパンといった定番メニューや季節限定メニューなど約40種類のパンが並んでいます。朝9時から焼きあがったパンが店頭並びだし、11時にはすべてのパンが焼きあがります。
こだわりのコーヒー・紅茶はおかわりが自由、一人で来られてものんびりと過ごすことのできるお店です。テラスではペットと一緒に過ごすことができます。是非お立ち寄り下さい。



〒525-0022 草津市河原町宮ノ前197-3
TEL 077-569-5697 FAX 077-569-5518

社会福祉法人湖北会 ライフまいばら
あげパン&CAFE 『ぱんげあ』
36のバリエーションから選べるあげパン

ライフまいばらでは、米原市顔戸のフタバヤ近江店南側に2010年1月29日にあげぱん&CAFE『ぱんげあ』をOPENしました。
なつかしい給食の味「あげパン」をベースに6種類のフレーバートッピングと3段階のあげ方、2つのサイズの計36バリエーションをお楽しみいただける当店のオリジナルあげパンを販売いたします。地域の方がお買い物帰りに気軽に立ち寄り、交流してもらえる場になればと考えております。
Sサイズ100円 Lサイズ150円 ドリンク類は150円からご用意しております。



〒521-0072 米原市大鹿514 TEL 0749-55-2551
「ぱんげあ」店舗 米原市顔戸1058-1 TEL 0749-52-6188

当事者の「働きたい」「高い給料がほしい」にこたえて。

New challenge 各働き・暮らし応援センターに販路拡大推進員を配置

～就労製品等販路拡大・販売促進事業の取り組み～

障害のある人の「働きたい」、「もっと高い給料が欲しい」という思いの実現に向け、全国で工賃倍増五カ年計画支援事業が実施されるなど、各地で官民連携した事業が実施されています。滋賀県においても就労収入向上プロジェクト等により障害者就労支援事業所等の新規事業の立ち上げ支援や販路の拡大、商品開発等のコンサルティングや研修会などを実施しています。

さらに2009年度からは、圏域内での受発注の拡大に向け、各圏域の働き・暮らし応援センターに販路拡大推進員を配置しています。この事業は緊急雇用創出特別推進事業を活用し、各圏域内の企業を推進員が訪問・営業することによって、作業所商品やサービスの販路の拡大、実習先の開拓等を目的としています。

7圏域の働き・暮らし応援センターでは年間延べ約4500社に、障害のある人の就労支援を目的に訪問をしています。そのため働き・暮らし応援センターには圏域内の企業等とのネットワークが既に構築されつつあり、その機能を障害者就労支援事業所等の受発注の拡大にも繋げることができないかという新しいチャレンジです。

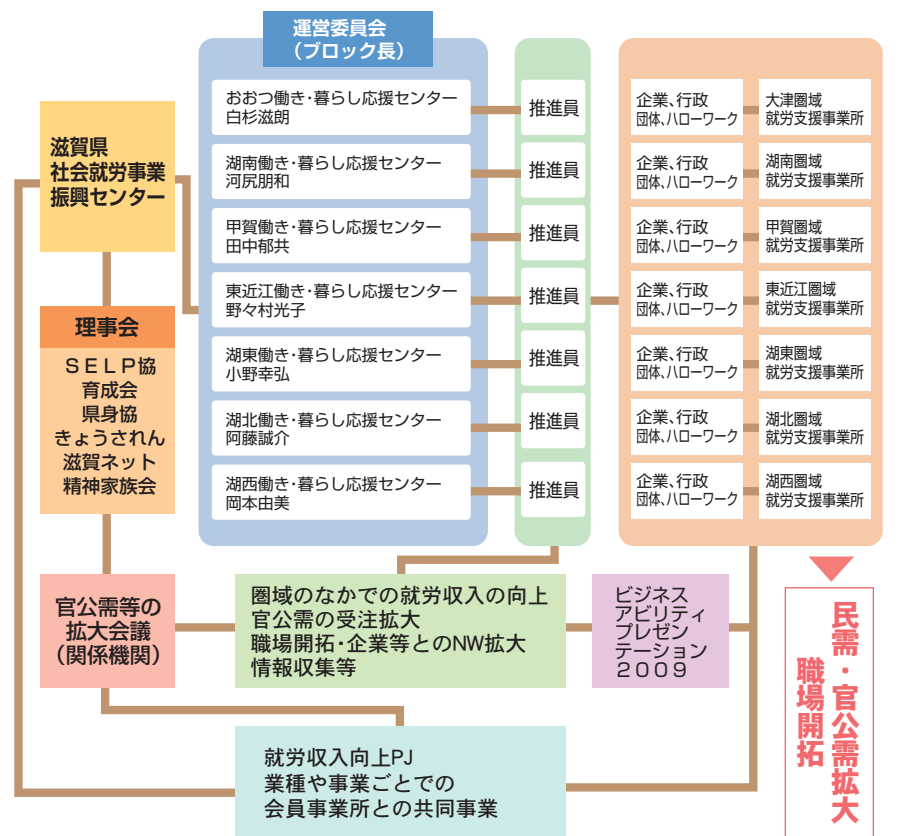
滋賀県障害者自立支援協議会ネットワーク部会就労分野は7圏域の働き・暮らし応援センターで組織され、事務局を振興センターが担っています。また今年度より振興センターの運営委員も各圏域の働き・暮らし応援センターで組織されています。

他府県では各センター同士や障害者就労支援事業所等との連携が課題となっているなか、振興センターを軸とした連携がある滋賀県らしい取り組みとして、次年度以降も事業を推進していく予定です。

おおつ働き・暮らし応援センター センター長 白杉 滋朗

おおつ障害者働き暮らし応援センターでは、販路開拓推進員を昨年9月より配置しています。働き暮らし応援センターは国事業である障害者就業・生活支援センターの上乗せ事業として県・市からの委託で展開しています。そういった観点から、その任務は障害者の就業支援に限定されることとなりますが、その遂行のためにも圏域内の障害者支援事業所(作業所)のネットワーク化と就労先となる地域の事業所との連携が重要です。推進員の活動は作業所の仕事を把握することから始まり、そこで働く障害当事者の実態やニーズを的確に掴むことが要求されます。そして、それを圏域内外の事業所にセールスする中で事業所の側の障害者観や障害者雇用に対する意識把握にもつながるのです。既に大津圏域では、推進員の情報により2～3件の職場実習や雇用が実現しています。雇用や作業所製品の購入・役務の利用は、まず従事する障害者を知ることから始まります。推進員にはエリアの中の人と仕事をつなげる役割を担っていただいているのです。作業所の事業振興と障害者の就労は表裏一体に進められるので、今後の成果に大きな期待が寄せられています。

人と地域が輝く「働き・暮らし」創造プロジェクト



共生社会の創造、地域づくり
就労支援事業所の就労収入向上
就労支援事業所から企業へ
働き・暮らし登録者の就職率UP
企業等とのNWの拡大・強化



—そこでれもん会社の木工と出会ったんですね。

(森岡さん) そうなんです。市販遊具の購入を検討しているとき、できれば安心して遊べる木工遊具の購入をしたいと考えていました。そんな考えにぴったりとあったのが、れもん会社さんの木工事業でした。「こんなところにヒントがあったんだ」と思いましたね。BAPのあと、担当の小西さんにゆめふうせんまでお越しいただき、ふらっとプレイスの雰囲気を見ていただきました。小西さんからふらっとプレイスのイメージに合わせた製品のご提案をいただき、市販製品には無いふらっとプレイスオリジナルの木

り、中には何回も親子で参加された方もいらっしゃいました。作業所のメンバーの方が先生になり、お子さんに教えている場面もあったのですが、お母さん方からも「普段は障がいある人とふれあう機会がないので、こういう場で同じ作業ができたことは良かったです。また参加してみたいです」「一生懸命説明をしてもらった女の子がとても明るくて、いっぱい元気になりました」といった感想をいただいています。このような感想を見ていても、地域の人が知らないのであれば、知る機会、知らせる機会がもっとできればと改めて感じました。これもBAPの取り組みと一緒にですね。

Joint business

ゆめふうせん



れもん会社の木工遊具／社会就労センタードリームのパン／ウッディ伊香立のそば打ち／おおぎの里のガラス工芸

生活協同組合コープしが、北大津センターの移転にともない、新センターを単に生協の事業施設にとどめるのではなく、地域住民の社会資源として多くの方に利用していただきたいという考えから大津市真野に福祉ネットワークセンター「ゆめふうせん」を2006年10月に開設されました。振興センターとゆめふうせんでは、地域の人と障がいがある人たちが自然な形でふれあい、障がいがある、ないに関わらず、人と人との人間的なつながりや絆が割れる地域社会となることを目指し、地域の方や作業所が参加する「ふだんのくらしのしあわせ実行委員会」を立ち上げました。今回は取り組みが始まったきっかけや今後の展開について福祉ネットワークセンター担当の富田 剛さんと森岡 淳子さんにお話を伺いました。

—まず、「ゆめふうせん」の施設を作られたきっかけを教えてください。

(富田さん) コープしがでは2003年より地域の人たちからの困りごと、悩みごとなどを気軽に相談できる窓口として「福祉情報電話」を開設していますが、未就学児を持つお母さんから「月曜の図書館が休みの日に子どもを連れて行ける場所はないの?」とか「近くに子育てサークルはないの?」といった相談を多く受けていました。また、比較的元気であるけど行くところが無いお年寄りの方が、気軽に行ける場所を作ってほしいといった声を受け、地域にお住まいの皆さんが誰でも「ふらっと」集える場所として「ゆめふうせん」は誕生しました。

—地域のお住まいの人が「ふらっと」集える場というのは、街にある公園のようなイメージですよね。

(森岡さん) そうなんです。お母さんから「安心して子どもが遊べるところがほしい」という声もたくさんいただいていた。ゆめふうせんでは、「ふらっとプレイス」と名づけ、一室を開放しています。小さなお子さんはおもちゃで遊んでいらっしゃいますし、お母さんたちは、ママ友たちと楽しくおしゃべりをされています。公園での風景そのもので、私たちはその場所をどなたでも気軽に利用していただける、「屋根のついた公園」としてご紹介しています。

—そんな「ゆめふうせん」ですが、これまでどんなことをされてきたのですか?

(富田さん) ゆめふうせんでは、一年を通してさまざまな企画を催しています。たとえば地域の方の「こんなことをしてみたい、学んでみたい」という声を反映した、大人向けのメンタルヘルスの学習会企画や子ども向けの実験教室、工作教室などを開催しています。また、「こんなことを皆さんに知ってほしい、知らせたい」という企画についても多く開催しています。地域の声に応え、その時々ニーズにあった企画を催すことを心がけていることから、多くの方に参加いただいていると思います。

—作業所との出会いにはどのようなきっかけがあったのでしょうか?

(森岡さん) きっかけは、2008年12月に大津プリンスホテルで開催された、ビジネスアビリティ・プレゼンテーション2008 (BAP'08) です。私は以前より作業所のことは知っていたのですが、このBAP'08での出会いにより、「知らなかった」ことに気がつきました。作業所からのプレゼンテーションを受け、ブースで商品に触れることにより、「ああそうなんだ!」という新鮮な「驚き」と「気づき」を得ました。実はちょうどそのころ、施設美化や備品整備への活用を目的に施設利用者からいただいている協力金で、遊具の購入を検討していました。BAPへ参加する前は、その遊具を市販の物の中から選ぶつもりだったんです。作業所のことを知っているつもりであった私に、この遊具を作業所で作ってもらうという視点がなかったのです。知ろうという一歩がなかったことも理由かもしれませんが、知る機会やきっかけがなかったのも事実ですね。そういった意味でもBAPへの参加は非常にいい機会であったと思います。

工遊具が生まれました。おかげさまで、お子さんたちに大人気の遊具となっています。

—そしてゆめふうせん企画「ふれあい・ふらっとプレイス」につながって行ったのですが、それについても教えてくださいませんか?

(森岡さん) 「ふれあい・ふらっとプレイス」は、障がいがある人と地域の人たちが何かの形で出会える機会がないのか?と考えると、「ふだんのくらしのしあわせ実行委員会」が主体となって企画いたしました。単に障がいがある人と地域の方とがふれあいを持つというのではなく、作業所のメンバーが普段からされている作業をこの場所ですべていただき、普段からゆめふうせんに来ていただいているお母さんやお子さんと一緒にその作業を体験していただくというものです。今回はドリームさんのパン作り、ウッディ伊香立さんのそば打ち、おおぎの里さんのガラス工芸の作業と一緒にいただき、体験していただきました。

—「ふれあい・ふらっとプレイス」の様子はいかがでしたか?

(森岡さん) この企画にもたくさんの方が参加していただきました。ちょうど期間中が施設の改修工事と重なっていたドリームさんには2週間にわたり作業をしていただきました。毎日いろいろなパン作りの体験プログラムを組んでいただいたのが、口コミでお母さん方に伝わ

—今後の「ゆめふうせん」での取り組みに期待します。

(富田さん) 人と人がつながる場を提供すること、安心、安全を提供することが「生協らしさ」と考えます。時代のニーズに合わせたつながり方を模索し、新しい地域でのつながりを創っていきたいと思います。



地域の代表として「ふれあい・ふらっとプレイス」企画に携わっていただいた、ふだんのくらしのしあわせ実行委員長でもある上田弘美さんに感想をいただきました。

参加されたお母さん方にとって、パン生地を見事に成型される利用者さんは一流のパン職人、わかり易く丁寧に指導し、同じことを何度聞かれても笑顔で答えて下さる利用者さんは偉大な先生でした。そして、幼い子ども達にとっては、「障がいがあるのにすごい」ではなく、ただ「すごい」「カッコいい」でした。

焼き上がったシフォンケーキを見て感動のあまり泣いてしまわれたお母さん、焼き立てのパンを食べて「おいしい!」と叫んでくれた子ども達、「楽しかった。」「すばらしいみんなにたくさん力をもらった。」「幸せをありがとう。」というアンケートの声…。感謝された、喜ばれた、敬われたということを実感された利用者さんは、自信にあふれ誇り高く輝いておられるように感じました。

様々な人が集うこの部屋には、静かな音楽が流れているような穏やかな空気がありました。泣き出した赤ちゃんは、利用者さんに抱き上げられると泣き止み、その光景を微笑ましく見守る温かい眼差しがありました。

延べ人数195人の来場者1人1人が、ここで様々なことを感じ多くのものを得られたことを通して、それがノーマライゼーション社会の実現への大きな一歩となったことを確信します。

上田弘美